

# <青年漁業者のための 第3回ブラッシュアップ研修> 気候変動下における漁協青年部の役割 —自然災害・環境変化の実態と対応策を語ろう—

主催：全国漁青連  
協力：水産研究・教育機構  
中央水産研究所

## 研修の目的

- 水産政策の改革を受け、改めて地域における漁業の役割に焦点を当て、
- 全国共通の課題である気候変動に伴う自然災害や環境変化への対応について、
- 地元でおこなっている取組を見える化し、グループワークで考える。

## 研修の内容

開催日：2019年6月26日(水) / 開催場所：コービル6階「第3会議室」



## グループワーク（課題と対応策の検討）

### テーマ1 獲れる魚が変わった時に漁師はどうするか



- 漁業者ではどうにもならない（漁法・漁業を変えることは疑問）
- 安い魚を高い魚に変える工夫  
サワラの北上→サワラのブランド化、北海道の定置網でブリ大漁→高く買ってくれるところを探すなど



- 獲れる魚にあわせて新しい流通ルートを開拓
- 地元でも消費できるように自信を持って高く売る
- 美味しい食べ方をPRして、魚の良さを知ってもらうことが大切

### テーマ2 緊急時に備えて何が出来るか



- 若手漁師向けの訓練・講習会・大会等を開催（地元の消防団）
- 緊急時は自分と家族をまず守る
- ライフジャケット着用を強化
- 災害時のマニュアル作成を義務付け、連絡体制の強化



- まず、自分の身を守る（緊張感を持って過ごしている）
- 避難場所の確認、避難後に連絡が取れるように連絡網を整備する
- 自分の命が助かってはじめて、いろいろなボランティアができる

### テーマ3 災害時に漁師はどう地域に貢献できるか



- 地域で大地震や災害が起こった時に、漁青連の仲間と助け合える
- ブラッシュアップ研修会に参加し、コミュニケーションを図り、親睦を深めることがたいせつ



- 漁師は「手際が良い、仕事が早い」→この強みを活かして団結する
- 普段はライバル関係でも、困った時には協力する（但し、リスクを伴う）
- 消防団とは別に公的な水上消防団が組織されている地域もある

### テーマ4 漁場環境が悪化した時に何が出来るか



- 災害時の流木を漁師が片付けても行政が撤去してくれない
- 陸からゴミが流れてこないように漁師から情報発信が必要
- 流木は海の栄養にもなるので、海中に沈める取り組みも実施



- インフラ整備によって潮の流れが止まり、水がきれいになりすぎた
- 自主的な海底耕耘を行っているが、効果はいまいち感じられない
- 国と漁業者が対話できるような機会を設けて欲しい
- 国民への積極的な情報発信

## まとめ

### 実態

自然災害：  
西日本 → 台風・洪水  
東日本 → 地震・津波

環境変化：  
全国的に海況・水温の変化、獲れる魚・時期の変化が顕著

### 対応策

漁場の掃除  
緊急時の連絡体制づくり  
高齢者の補助など

漁具・操業の改善  
漁場の手入れ、漁場の調査  
担い手育成

### 気候変動下における漁協青年部の役割

災害時・緊急時に備えて：  
● 若手漁師を対象とした訓練・講習会などの開催  
● 災害時のマニュアル作成  
● 連携体制の強化

災害時：  
● 全国の仲間との助け合い  
● 漁師の強み（手際の良さ、団結力）を活かし、地域に貢献  
● 救援活動への支援も必要

獲れる魚が変わった時：  
● 高く売る工夫（ブランド化、流通ルートの開拓等）  
● 地元で消費する（自信を持って高く売る等）

漁場環境が悪化した時：  
● 行政と漁師が対話・連携できるような機会を設ける  
● 漁師の自主的な活動にも限界がある

### 聞いてみたいこと（=困っていること）

- 他地域で有効だった具体的な取組  
→ 災害時の対策・効果（沖出し、定置網の網揚等）  
→ 海水温上昇への対応策（ノリの育苗方法等）  
→ 漁場の手入れによる効果
- 日本の漁業の将来像（将来どうなる？ どうしたらもうかる？）

たいせつなこと：  
全国的な繋がり、情報のネットワーク、情報発信、がまん